

われは、すべての多様な麻酔記録用紙を受取る者！

求む 未使用の麻酔記録用紙

皆さんのお手元に、眠っている古い麻酔記録用紙があったらぜひご提供ください！

なんだかチリ紙交換みたいになってしまいますが、私は「麻酔記録用紙研究会」を世話する者です。新しく訪れた病院で麻酔記録用紙を見るたびに、どうしてこんなに多様なのか、すっかり魅了されてしまいました。日本中の麻酔記録用紙を見たい！ そんな欲望に忠実に生きようと、現在鋭意活動中です。

『麻酔』誌 2025 年 11 月号 & 12 月号、『臨床麻酔』誌 2025 年 11 月号にも、麻酔記録用紙を集めている由を告知しました。今回の『LiSA』誌への掲載で、日本の麻酔関連商業誌を制覇です。収集癖のある人間はコンプリートにこだわります。また、先日名古屋で開催された日本臨床麻酔学会第 45 回大会においても開催事務局の許可を得て、受付近くに投函箱を設置させていただきました。その結果、6 名の方から提供いただき、一次解析処理に忙しい毎日です。厚くお礼を申し上げます。

麻酔記録用紙研究会の活動は、いろいろな麻酔記録用紙を拝見しておのの個性を味わうことです。それしか行うべきことはありません。本当に多様性に富んでおり、先人の工夫の跡にはただただ感心するばかりであります。例えば、開始/終了などのイベントを示す記号の凡例は、現時点で挿管は 9 種類、抜管は 15 種類の記号があり、その組み合わせは 16 通りという驚くべき多様性が見られます。また、時間の区切りは、多くは 0 分から始まり 60 分で終わるのですが、-10 分などから始ま

るものや、15 分おまけが付いているものなど、それぞれの病院によって工夫されております。

麻酔記録用紙は「記録媒体」です。それは患者さん個人の術中全身状態を記録したものであり、麻酔科医が何を行ったかという記録ではありますが、さらに俯瞰すると、麻酔科医たちの記録、麻酔科学の記録ということにもなると思います。日々の麻酔記録から抽出されたものが、成書に書かれている麻酔科学の「歴史」となる、と言ったら言い過ぎでしょうか。歴史を学ぶことは、人間だけに許された進化の原動力です。

「歴史を無視する世代には過去も未来もない」

(ロバート・A・ハインライン)

そして麻酔記録用紙は進化します。臨床の忙しい現場で、より正確に、より効率的に記載するにはどうすればよい？ 必要な情報と余分な情報を仕分けるには？ 現場は多様です。麻酔科医として受ける教育も多様かもしれません。そこには多様な進化の方向が見られます。

現在、電子麻酔チャートの導入が進んでおり、紙の麻酔記録用紙は徐々に使われなくなってきています。これは歴史の必然ですので仕方ないことですが、紙の記録用紙について誰かが保存して記録しないと、すべてが失われてしまうのではないかと怖れます。

現在は患者情報の記載がない「未使用の」麻酔記録用紙を集めております。提供してもよいと思われる方は、どうぞ下記のアドレスまでメールで御一報ください。爆速でお返事いたします。

E-mail : gyu@med.showa-u.ac.jp

(昭和医科大学横浜市北部病院 麻酔科 橋本 徳)